

## 大腸癌の化学療法:抗体製剤の時代を迎えて

司会 聖マリアンナ医科大学消化器・肝臓内科  
東京大学腫瘍外科

伊東 文生  
名川 弘一

大腸癌に対する薬物療法はオキサリプラチン等を中心とする治療法によって生存期間延長が認められている。さらにベバシズマブ、セツキシマブなど抗体製剤が使用可能になっており、大腸癌化学療法の標準治療の一翼を担うようになりつつある。ベッドサイドにおいても分子標的薬に対する薬剤感受性及び副作用発生の予測等の工夫がなされている。本セッションでは抗体製剤を中心にベンチおよびベッドサイドからの幅広い議論をしたい。